

**日本における食料品の流通・加工実態に
対する消費者の意識調査
結果報告書**

令和2年3月

公益財団法人 流通経済研究所

報告書の構成

I 調査概要

II 調査結果

III 調査結果のまとめ

参考 クロス集計結果

I 調査概要

1 調査方法、対象等

■ 調査の目的

- 過剰な商慣行等の是正を促進すべく、商慣行等の発生要因、取組の負担、物流や食品ロス等の社会問題に対する影響についての消費者理解度等を把握するために消費者意識調査を実施した。

■ 調査項目

- 賞味期限の年月表示化についての認知、評価
- 流通での品切れを発生させない納品についての認知、評価、意見
- 流通での短リードタイム納品についての認知、評価、意見
- 小売店で購入目的商品が欠品していた場合の行動

■ 調査方法：インターネット調査

■ 調査対象者

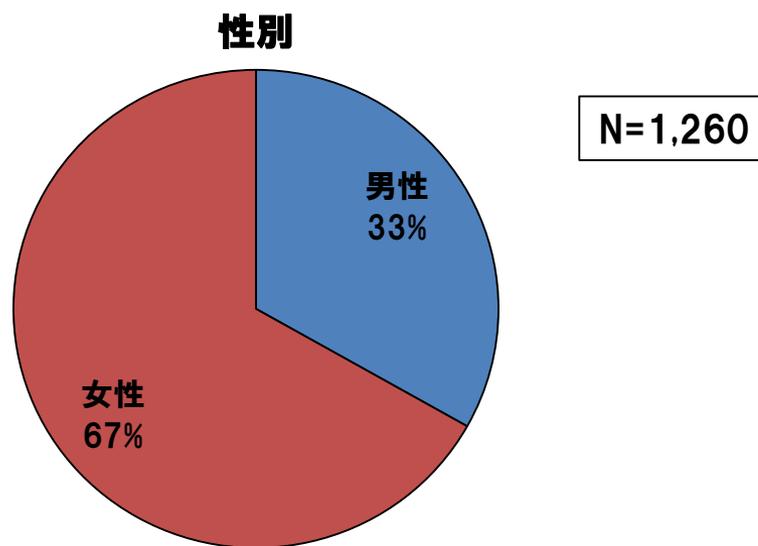
- 調査対象数：有効回答数1,000件を得られるように調査対象を設定
- 地域構成：全国
- 年齢：20歳代～70歳代を対象とし、10歳区分ごとに100件～200件を確保するように設定
- 性別：男性・女性

■ 抽出条件

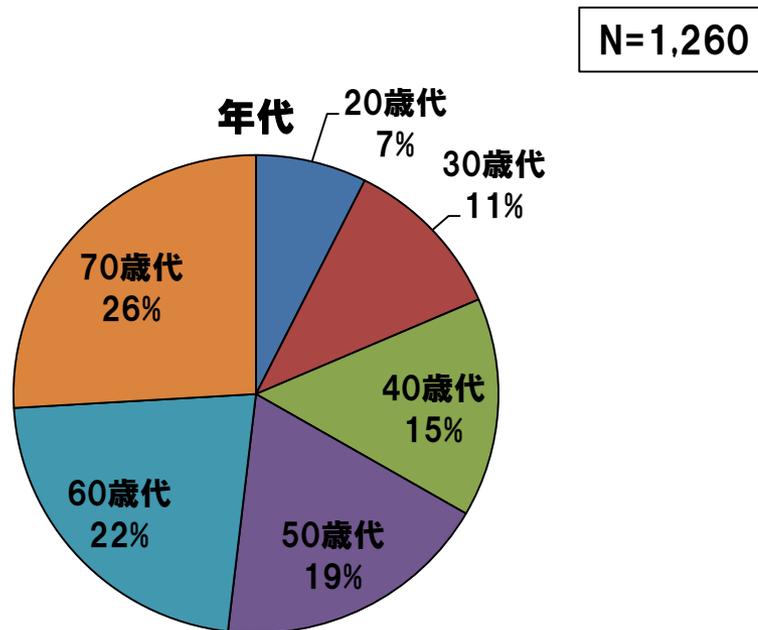
- スーパーマーケット（総合スーパー／食品スーパー／生協の店舗）の利用頻度が月1回以上ある方
- 最近1年間に、加工食品、嗜好食品、生鮮・惣菜、チルド食品を購入した方

2 回答者属性

(1) 性別

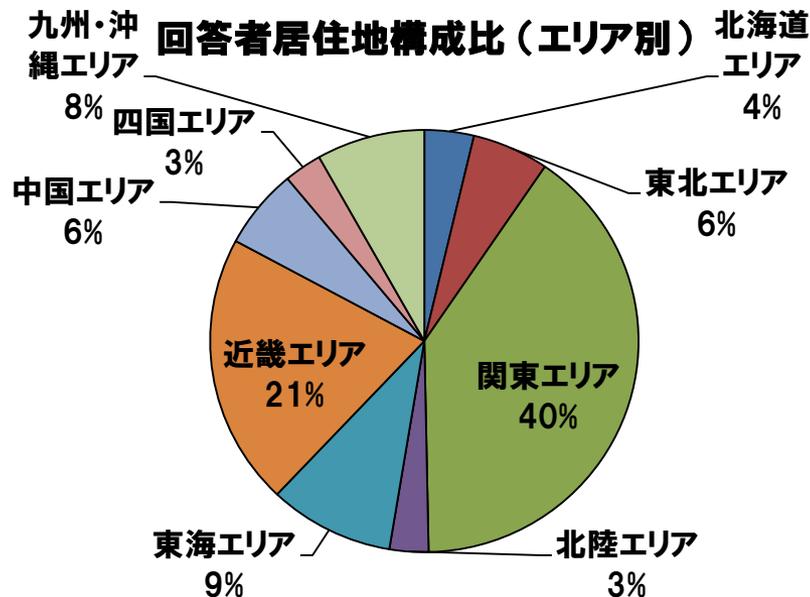


(2) 年代



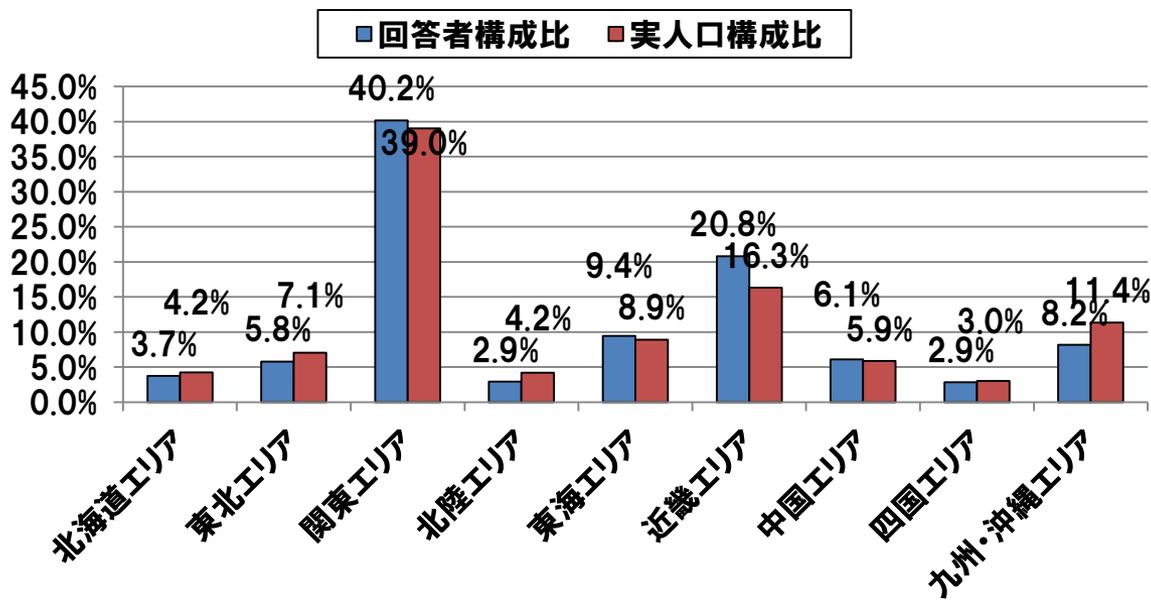
2 回答者属性(つづき)

(3) 居住地



N=1,260

回答者／実人口居住地構成比(エリア別)



II 調查結果

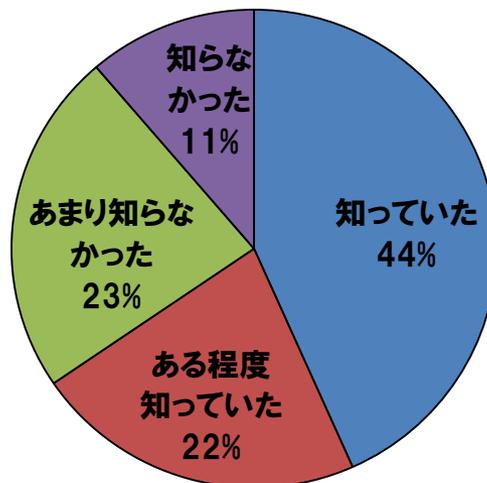
1 賞味期限の年月表示化について

(1) 消費者の認知度

賞味期限までの期間が3カ月を超える加工食品(清涼飲料、菓子、醤油、調理食品等)について、賞味期限表示の「年月日」表示から「年月」表示への切り替えが広がりつつあることをご存知ですか。

消費者の認知度

N=1,260

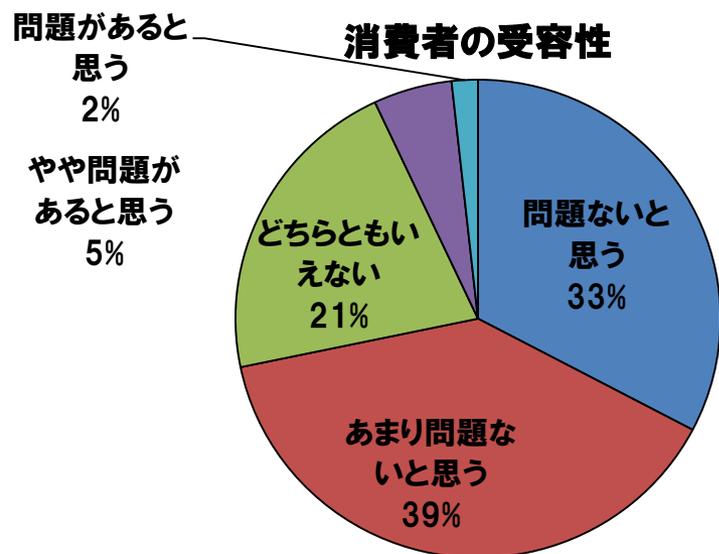


- 賞味期限表示の年月日表示から年月表示への切り替えが広がりつつあることを「知っていた」「ある程度知っていた」消費者は7割弱であった。
- 一方、「知らなかった」「あまり知らなかった」消費者は3割強であった。

1 賞味期限の年月表示化について

(2) 消費者の受容性

あなたは、賞味期限までの期間が3カ月を超える加工食品の賞味期限表示が「年月」表示に切り替わることについて、どのように思いますか。



N=1,260

- 7割強の消費者は、賞味期限表示の「年月日」表示を「問題ない」「あまり問題ない」と思っている。
- 一方、消費者は3割弱は、「どちらともいえない」「やや問題がある」「問題がある」と思っている。

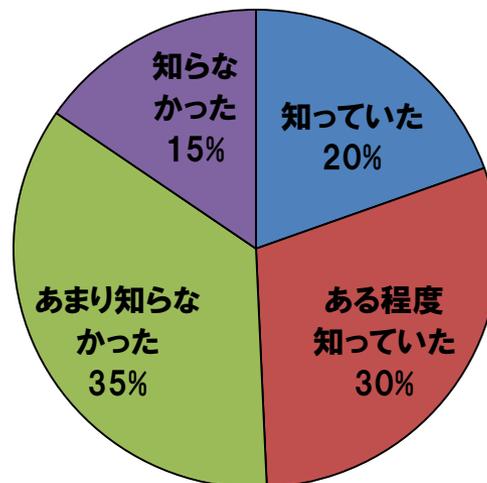
2 日本の食品流通における高い納品精度について

(1) 消費者の認知度

日本の加工食品の流通では、スーパー・コンビニ等の食品小売業が商品を発注すると、仕入先の卸売業・メーカーは、品切れが発生しないように商品を納入しています。あなたはこうした対応が行われていることをご存じでしたか。

消費者の認知度

N=1,260



- 卸売業・メーカーは、品切れが発生しないように商品を納入していることを「知っていた」「ある程度知っていた」消費者は5割であった。
- 一方、「知らなかった」「あまり知らなかった」消費者も5割であった。

半数の消費者は、日本の食品流通において、卸売業・メーカーが高い納品精度で配送を行っていることをよく知らない。

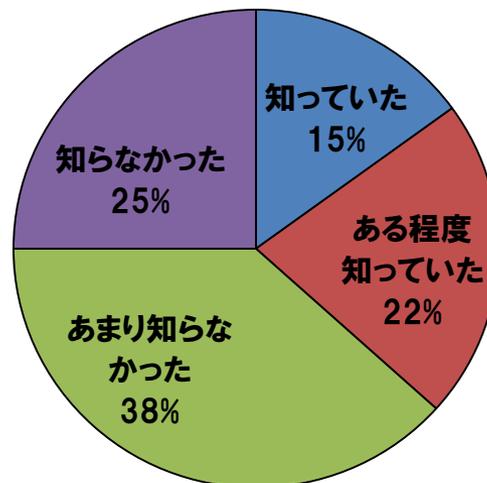
2 日本の食品流通における高い納品精度について

(2) 納品精度の高さがもたらす問題の理解度

食品卸売業や食品メーカーは品切れが発生しないように商品を多めに準備していますが、準備した商品が売れ残る場合があります。一部は廃棄されています。あなたはこうした対応が行われていることをご存じでしたか。

納品精度の高さがもたらす問題の理解度

N=1,260



- 卸売業・メーカーが、納品精度の高さを実現する一方、多めの商品在庫(準備)を持つため売れ残りや廃棄が生じることについて、「知っていた」「ある程度知っていた」消費者は4割弱であった。
- 一方、これらの問題を「知らなかった」「あまり知らなかった」消費者は6割強であった。

6割強の消費者は、日本の食品流通において卸売業・メーカーが高い納品精度を実現する一方で、そのために準備した商品の売れ残りや一部廃棄が発生していることをよく知らない。

2 日本の食品流通における高い納品精度について

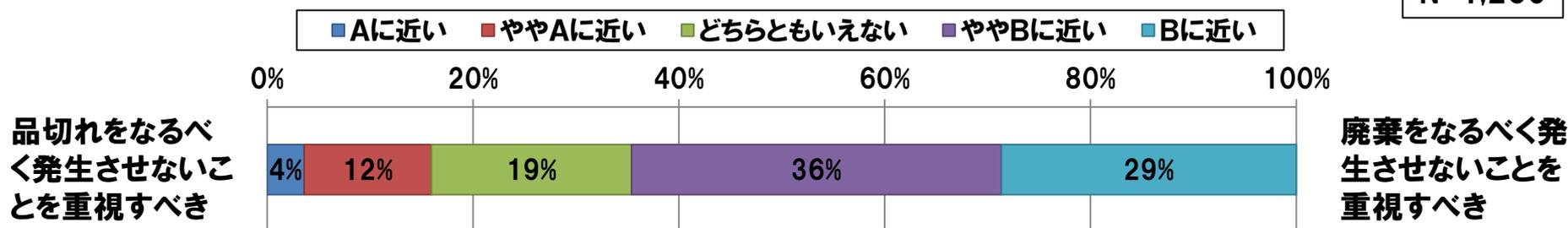
(3) 納品精度と廃棄等のトレードオフに対する消費者評価

加工食品の取引・物流において、以下のA、Bの考え方があります。あなたはどちらが望ましいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

- A: 品切れをなるべく発生させないことを重視すべきであり、廃棄が多少発生してもやむを得ない
- B: 廃棄をなるべく発生させないことを重視すべきであり、品切れが多少発生してもやむを得ない

納品精度と廃棄等のトレードオフに対する消費者評価

N=1,260



- 「品切れをなるべく発生させないことを重視すべきであり、廃棄が多少発生してもやむを得ない」という考え方に「近い」「やや近い」消費者は2割弱であった。
- 「廃棄をなるべく発生させないことを重視すべきであり、品切れが多少発生してもやむを得ない」という考え方に「近い」「やや近い」消費者は約2/3であった。

約2/3の消費者が、「廃棄をなるべく発生させないことを重視すべきであり、品切れが多少発生してもやむを得ない」と考えている。

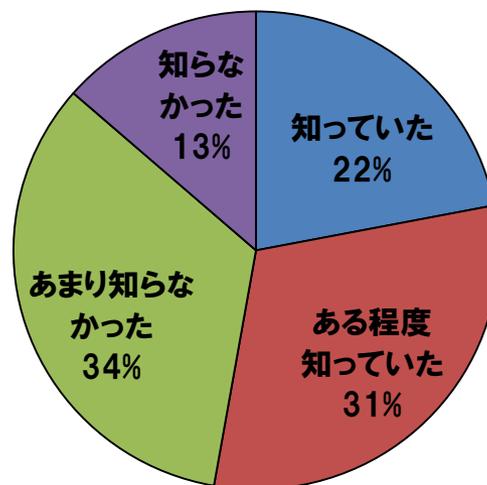
3 日本の食品流通において定着している受注当日・翌日納品について

(1) 消費者の認知度

加工食品の流通では、スーパー・コンビニ等の食品小売業が商品を発注すると、仕入先の食品卸売業・食品メーカーは当日もしくは翌日に商品を納品しています。あなたはこうした対応が行われていることをご存じでしたか。

消費者の認知度

N=1,260



- 食品小売業が発注すると、仕入先の卸売業・メーカーは当日もしくは翌日に商品を納品していることを「知っていた」「ある程度知っていた」消費者は5割強であった。
- 一方、「知らなかった」「あまり知らなかった」消費者は5割弱であった。

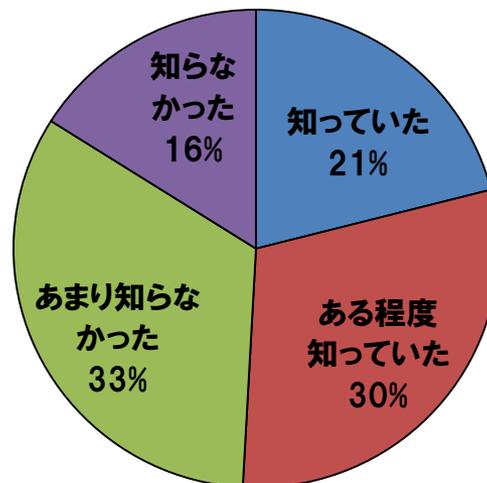
約半数の消費者は、日本の食品流通において、卸売業・メーカーが受注当日もしくは翌日に商品を納品していることをよく知らない。

3 日本の食品流通において定着している受注当日・翌日納品について (2) 短納期納品がもたらす問題の理解度

食品卸売業や食品メーカーは、当日もしくは翌日に小売店へ商品を納入するために、倉庫や配送で夜間作業を行っています。あなたはこうした対応が行われていることをご存じでしたか。

短納期納品がもたらす問題の理解度

N=1,260



- 卸売業・メーカーが、短納期納品を実施する一方、倉庫や配送において夜間作業が行われていることについて、「知っていた」「ある程度知っていた」消費者は5割強であった。
- 一方、これらの問題を「知らなかった」「あまり知らなかった」消費者は5割弱であった。

約半数の消費者は、日本の食品流通において卸売業・メーカーが短納期納品を実施する一方、倉庫や配送において夜間作業が行われていることをよく知らない。

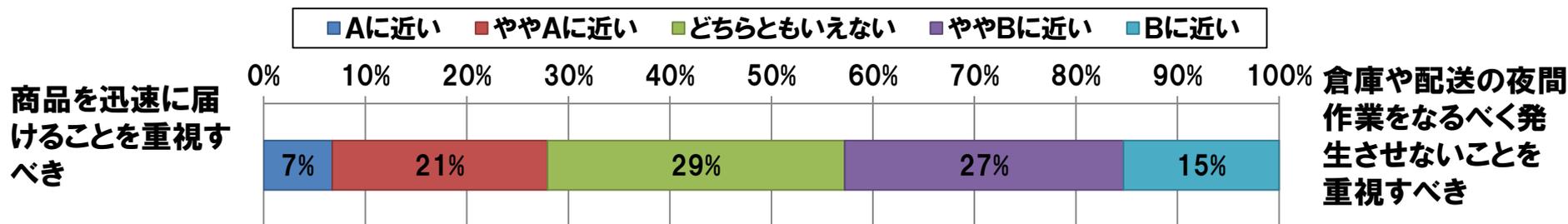
3 日本の食品流通において定着している受注当日・翌日納品について (3) 短納期納品と夜間作業等のトレードオフに対する消費者評価

加工食品の取引・物流において、以下のA、Bの考え方があります。あなたはどちらが望ましいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

- ・ A: 商品を迅速に届けることを重視すべきであり、倉庫や配送での夜間作業が多少発生してもやむを得ない
- ・ B: 倉庫や配送の夜間作業をなるべく発生させないことを重視すべきであり、翌々日の商品納入でもやむを得ない

短納期納品と夜間作業等のトレードオフに対する消費者評価

N=1,260



- ・ 「商品を迅速に届けることを重視すべきであり、倉庫や配送での夜間作業が多少発生してもやむを得ない」という考え方に「近い」「やや近い」消費者は3割弱であった。
- ・ 「倉庫や配送の夜間作業をなるべく発生させないことを重視すべきであり、翌々日の商品納入でもやむを得ない」という考え方に「近い」「やや近い」消費者は4割強であった。

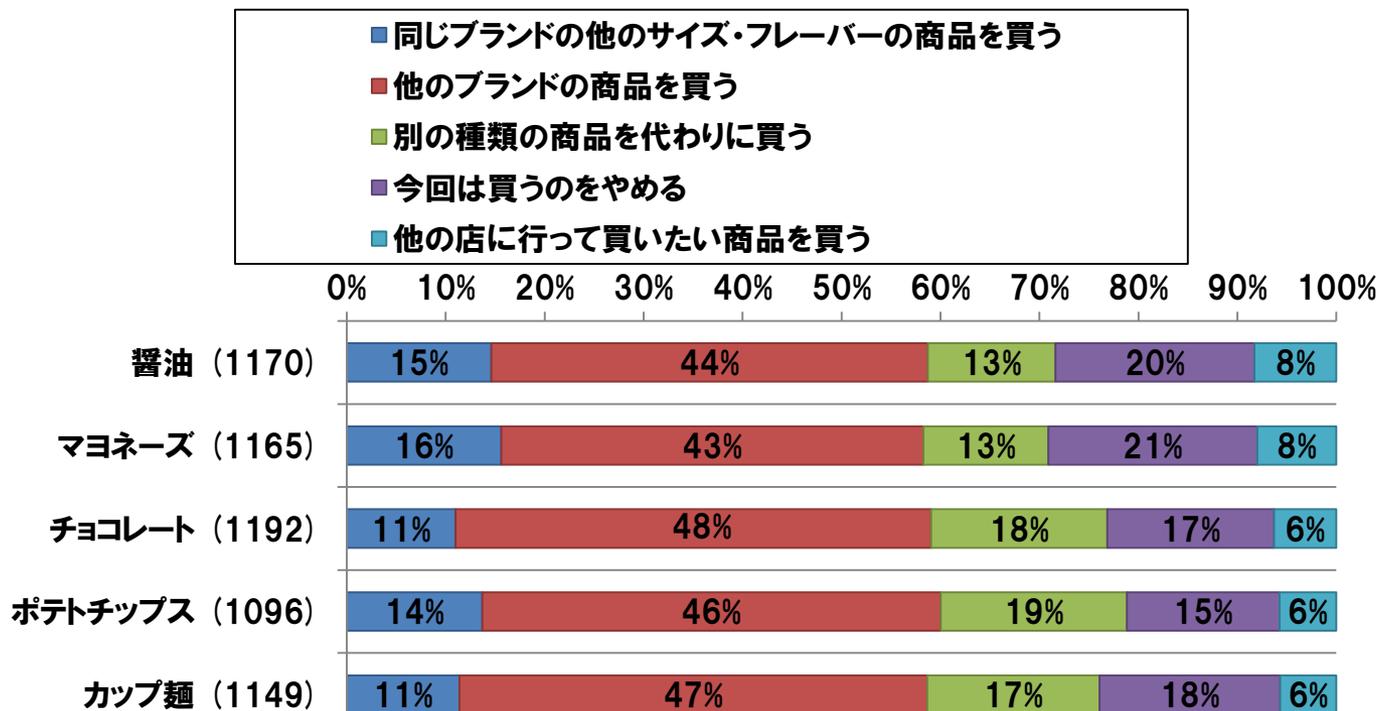
「倉庫や配送の夜間作業をなるべく発生させないことを重視すべきであり、翌々日の商品納入でもやむを得ない」と考える消費者の方が、「商品を迅速に届けることを重視すべきであり、倉庫や配送での夜間作業が多少発生してもやむを得ない」より1割強多い。

4 購買目的商品の店頭欠品時の行動

(1) 常温加工食品

あなたがスーパー等で買い物する際、買おうと思っていたブランドの商品がもし品切れしていたら、どのように対応しますか。商品の種類別に最も近いものを選んでください。

購買目的商品の店頭欠品時の行動（常温加工食品）



※集計の際、各商品カテゴリーについて、本設問で「この商品を買うことがない」と答えた回答者を除外した。各カテゴリーの（ ）内数字は除外後の回答者数。

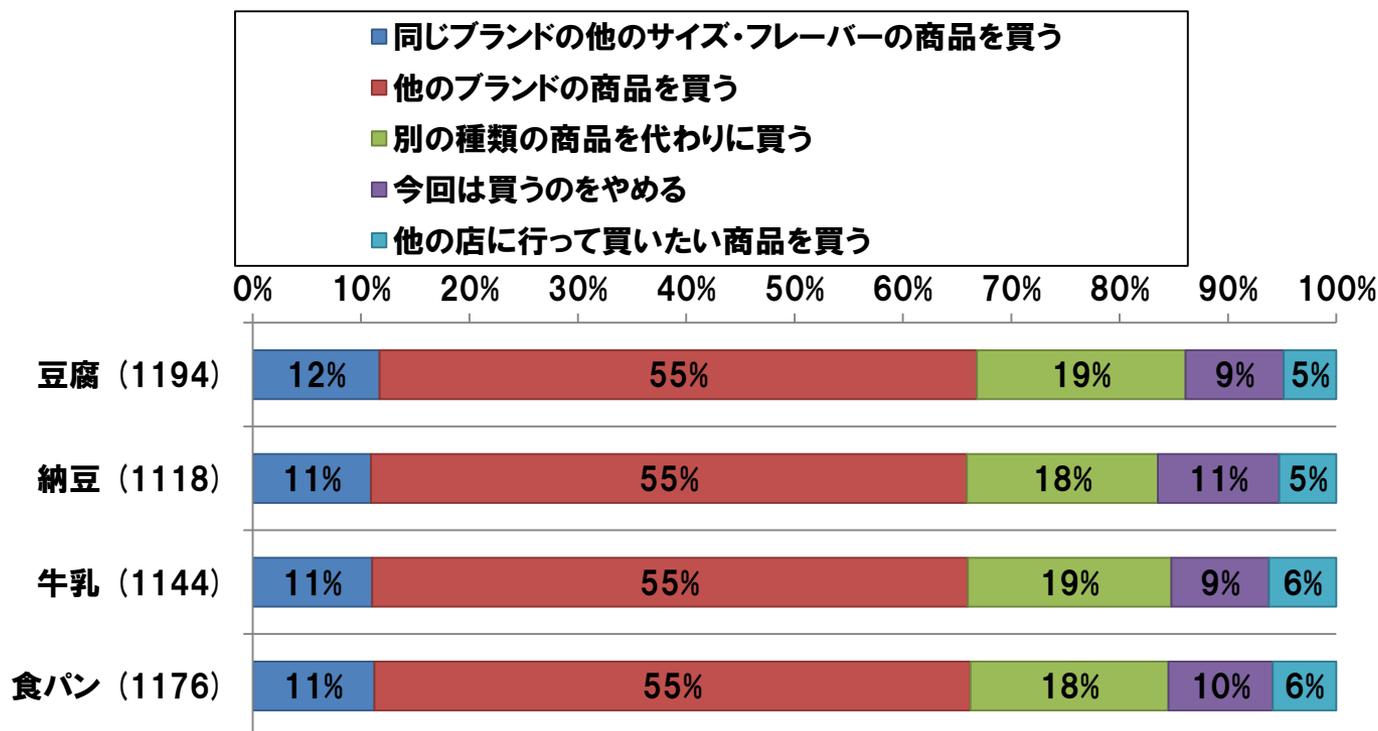
- ・ 購買目的商品が欠品していた場合、7割強～8割弱の消費者が、同じ店舗で別の商品を購入すると回答した。
- ・ 一方、購入をやめる消費者は、1割台～2割強である。
- ・ 他店に出向いて購入するとの回答は1割未満である。

4 購買目的商品の店頭欠品時の行動

(2) 日配品

あなたがスーパー等で買い物する際、買おうと思っていたブランドの商品がもし品切れしていたら、どのように対応しますか。商品の種類別に最も近いものを選んでください。

購買目的商品の店頭欠品時の行動（日配品）



※集計の際、各商品カテゴリーについて、本設問で「この商品を買うことがない」と答えた回答者を除外した。各カテゴリーの（ ）内数字は除外後の回答者数。

- ・ 購買目的商品が欠品していた場合、8割強～9割弱の消費者が、同じ店舗で別の商品を購入すると回答した。
- ・ 一方、購入をやめる消費者は、約1割である。
- ・ 他店に出向いて購入するとの回答は1割未満である。

III 調査結果のまとめ

調査結果のまとめ

■ 賞味期限の年月表示化について

- 流通生産性向上に寄与する賞味期限の年月表示化の、消費者の認知度は高い（7割弱）。
- 完全でないものの、年別表示化しても問題ないとの消費者理解が得られている（7割強）。

■ 日本の食品流通における高い納品精度について

- 店頭での欠品を防ぐため、卸売業・メーカーが高い納品精度で商品納入を行っていることは、約半数の消費者にしか知られていない。
- 高い納品精度を実現するため、売れ残りやその一部が廃棄されている問題について知っている消費者は4割弱と少ない。
- また、納品精度と廃棄等とのトレードオフに関しては、廃棄を発生させないことに対して肯定的な意見が多い（約2/3）。

■ 日本の食品流通における受注当日・翌日納品について

- 短納期納品が行われていることは約半数の消費者が理解している。
- 一方、夜間に作業してまで短納期納品を行うことについては否定的な意見の方が多い。

■ 消費者の購買目的商品の店頭欠品時の行動

- 購買目的商品が欠品していた場合、購入をやめたり、他店で購入する消費者も一定程度いるものの、多数（7割強～8割強）の消費者は、他のブランドを同じ店舗で購入する等している。

店頭での欠品を防ぐために、高い納品精度での納品や、短納期納品が過度に行われ、その結果、食品廃棄・ロスが発生したり、夜間作業が恒常化するなど、流通過程で生産性低下につながる無駄が生じている場合がある。本調査結果からは、こうした問題の改善について消費者理解は得られやすい状況にあると考えられる。そのため、消費者理解をさらに広げつつ、生産性低下につながる無駄が生じている場合、上記の商慣行改善の対策を検討すべきである。

参考 クロス集計結果

性別（2区分）、年齢（3区分）でクロス集計を商慣行の認知度・弊害理解度を問う設問に実施したが、いずれの設問でも、属性による回答傾向の違いは大きくなかった。

参考資料として、以下にクロス集計結果を掲載する。

1 賞味期限の年月表示化について

(1) 消費者の認知度

賞味期限までの期間が3カ月を超える加工食品(清涼飲料、菓子、醤油、調理食品等)について、賞味期限表示の「年月日」表示から「年月」表示への切り替えが広がりつつあることをご存知ですか。

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
男性	62%	38%	100%	418
女性	67%	33%	100%	842
合計	65%	35%	100%	1,260

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
20歳~30歳代	61%	39%	100%	423
40歳~50歳代	69%	31%	100%	424
60歳~70歳代	66%	34%	100%	413
合計	65%	35%	100%	1,260

(2) 消費者の受容性

あなたは、賞味期限までの期間が3カ月を超える加工食品の賞味期限表示が「年月」表示に切り替わることについて、どのように思いますか。

	問題ないと思う+あまり問題ないと思う	どちらともいえない	やや問題があると思う+問題があると思う	合計	N
男性	74%	19%	7%	100%	418
女性	71%	22%	7%	100%	842
合計	72%	21%	7%	100%	1,260

	問題ないと思う+あまり問題ないと思う	どちらともいえない	やや問題があると思う+問題があると思う	合計	N
20歳~30歳代	67%	22%	11%	100%	423
40歳~50歳代	72%	23%	4%	100%	424
60歳~70歳代	76%	18%	6%	100%	413
合計	72%	21%	7%	100%	1,260

2 日本の食品流通における高い納品精度について

(1) 消費者の認知度

日本の加工食品の流通では、スーパー・コンビニ等の食品小売業が商品を発注すると、仕入先の卸売業・メーカーは、品切れが発生しないように商品を納入しています。あなたはこうした対応が行われていることをご存じでしたか。

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
男性	43%	57%	100%	418
女性	53%	47%	100%	842
合計	49%	51%	100%	1,260

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
20歳～30歳代	49%	51%	100%	423
40歳～50歳代	52%	48%	100%	424
60歳～70歳代	47%	53%	100%	413
合計	49%	51%	100%	1,260

(2) 納品精度の高さがもたらす問題の理解度

食品卸売業や食品メーカーは品切れが発生しないように商品を多めに準備していますが、準備した商品が売れ残る場合があり、一部は廃棄されています。あなたはこうした対応が行われていることをご存じでしたか。

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
男性	32%	68%	100%	418
女性	39%	61%	100%	842
合計	37%	63%	100%	1,260

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
20歳～30歳代	37%	63%	100%	423
40歳～50歳代	42%	58%	100%	424
60歳～70歳代	31%	69%	100%	413
合計	37%	63%	100%	1,260

2 日本の食品流通における高い納品精度について

(3) 納品精度と廃棄等のトレードオフに対する消費者評価

加工食品の取引・物流において、以下のA、Bの考え方があります。あなたはどちらが望ましいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

- ・ A: 品切れをなるべく発生させないことを重視すべきであり、廃棄が多少発生してもやむを得ない
- ・ B: 廃棄をなるべく発生させないことを重視すべきであり、品切れが多少発生してもやむを得ない

	Aに近い+ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い+Bに近い	合計	N
男性	18%	21%	61%	100%	418
女性	15%	19%	66%	100%	842
合計	16%	19%	65%	100%	1,260

	Aに近い+ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い+Bに近い	合計	N
20歳～30歳代	22%	21%	57%	100%	423
40歳～50歳代	13%	22%	65%	100%	424
60歳～70歳代	12%	15%	72%	100%	413
合計	16%	19%	65%	100%	1,260

3 日本の食品流通において定着している受注当日・翌日納品について

(1) 消費者の認知度

加工食品の流通では、スーパー・コンビニ等の食品小売業が商品を発注すると、仕入先の食品卸売業・食品メーカーは当日もしくは翌日に商品を納品しています。あなたはこうした対応が行われていることをご存じでしたか。

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
男性	45%	55%	100%	418
女性	57%	43%	100%	842
合計	53%	47%	100%	1,260

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
20歳～30歳代	51%	49%	100%	423
40歳～50歳代	56%	44%	100%	424
60歳～70歳代	52%	48%	100%	413
合計	53%	47%	100%	1,260

(2) 短納期納品がもたらす問題の理解度

食品卸売業や食品メーカーは、当日もしくは翌日に小売店へ商品を納入するために、倉庫や配送で夜間作業を行っています。あなたはこうした対応が行われていることをご存じでしたか。

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
男性	42%	58%	100%	418
女性	55%	45%	100%	842
合計	51%	49%	100%	1,260

	知っていた+ある程度知っていた	あまり知らなかった+知らなかった	合計	N
20歳～30歳代	50%	50%	100%	423
40歳～50歳代	54%	46%	100%	424
60歳～70歳代	49%	51%	100%	413
合計	51%	49%	100%	1,260

3 日本の食品流通において定着している受注当日・翌日納品について

(3) 短納期納品と夜間作業等のトレードオフに対する消費者評価

加工食品の取引・物流において、以下のA、Bの考え方があります。あなたはどちらが望ましいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

- A: 商品を迅速に届けることを重視すべきであり、倉庫や配送での夜間作業が多少発生してもやむを得ない
- B: 倉庫や配送の夜間作業をなるべく発生させないことを重視すべきであり、翌々日の商品納入でもやむを得ない

	Aに近い+ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い+Bに近い	合計	N
男性	36%	27%	37%	100%	418
女性	24%	31%	46%	100%	842
合計	28%	29%	43%	100%	1,260

	Aに近い+ややAに近い	どちらともいえない	ややBに近い+Bに近い	合計	N
20歳～30歳代	31%	32%	37%	100%	423
40歳～50歳代	27%	31%	42%	100%	424
60歳～70歳代	26%	25%	49%	100%	413
合計	28%	29%	43%	100%	1,260